

PREX NOW



世界と関西をつなぐ VOL.273

特集:訪日研修がめざすもの



PREX流
研修の
牽引力。



【城崎温泉にて足湯体験】

強みを体感するJICA観光人材育成研修はどんな研修？

国際交流部の田中です。

サントリーホールディングス株式会社からPREXに出向し、初めてこの研修を担当しました。PREXがJICA関西より委託を受けて実施する開発途上国の観光関係行政官向けの訪日研修(9か国9名が参加)です。

研修員は、日本の観光地域づくりに関する国及び地方自治体の政策、法制度及び支援(助成)制度を理解し、観光地域づくりに取組む団体の役割を理解した上で、自国の状況と比較検討を行い、自国で実現可能な観光地域づくりと、それを担う人材の育成に関するアクションプランを作成します。5週間にわたる研修は座学だけではなく、訪日観光客の誘引に成功している城崎温泉を中心とした但馬地域をはじめ、開発が制限された環境下での地域資源を活かした観光地域づくりの明日香村の事例や、交流拠点施設(道の駅)を整備することで、交流人口拡大と地域活性化を狙った鳴門市の事例など、視察や体験を多く盛り込んでいます。



世界遺産 姫路城を訪れ観光資源としての強みを実感。

体験に基づいたアクションプランを構築。

成功の知見を。



【JICA東京での講義の様子】

日本の成功事例における知見を学ぶ研修員たち。

研修期間中は週ごとに「振り返り」を行い、研修員同士が学びを共有します。

参加国により経済的な規模や観光資源の数も異なりますが、コースリーダーの拓殖大学政経学部経済学科の山本尚史教授の指導の下、各国の特徴、強みや弱みは何かを踏まえたアクションプランを策定しました。日本の文化、生活、日本企業の特徴などについても、実際に日本で約1カ月過ごす中で理解が深まったようです。帰国後はアクションプランから実行計画を立て、具体化につなげていってほしいと思います。

協力いただいた講師・訪問先は徳島から城崎まで21か所。

★講師・訪問先(順不同)

- 観光庁(DVD) ○UNWTO ○阪南大学 ○拓殖大学 ○兵庫県立芸術文化観光専門職大学
- 鳴門市役所 ○大雪山自然学校 ○但馬國出石観光協会 ○山陰インバウンド機構
- 豊岡観光イノベーション ○大和飛鳥ニューツーリズム Opangaea
- 姫路コンベンションビューロー ○グリーンバレー ○歴史街道推進協議会
- 城崎温泉観光協会 ○Next Commoms Lab
- OTTC(道の駅くるくるなると) ○近畿日本ツーリストコーポレートビジネス
- 阪急阪神ホールディングス(講義) ○全但バス

【研修概要】 日程:2023年1月26日～3月3日 *研修受入期間

参加者:観光事業に携わる政府機関、公的機関職員 9名

参加国:カンボジア、モンゴル、ミクロネシア、ツバル、ジャマイカ、エジプト、エチオピア、タンザニア、タジキスタン

コースリーダー:拓殖大学 政経学部経済学科 山本 尚史 教授

委託元機関:JICA



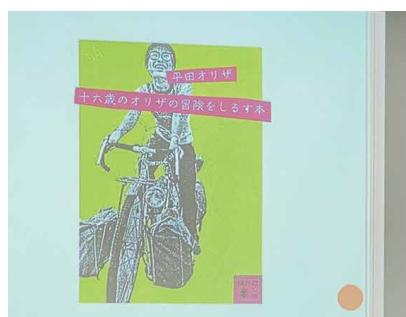
演劇と観光の ポテンシャル。

自国で何ができるか?どう生かせるか?の視点。

研修のなかで訪問した兵庫県立芸術文化専門職大学では、学長の平田 オリザ氏から講義をいただきました。兵庫県立芸術文化観光専門職大学は芸術文化と観光を結びつける日本で初めての学びの場です。観光振興や芸術文化振興を通じて、豊かな地域社会を作り出す、その新時代を担う人材の育成を目標としています。大都市圏ではなく、兵庫県の但馬の地に開設され、ここから、日本と世界の未来のカタチを創ろうという大学です。

平田学長の講義はご自身の生い立ちや、16歳で自転車による世界一周旅行を決行し、世界26か国を放浪したというお話から始まり、研修員との距離はあっという間に縮まりました「海外で出会った観光業者やホテルマンは小さいころから演劇などを経験し高いコミュニケーション能力を身につけている人が多い。それが海外からの観光客をもてなしたり、喜ばせたりする企画力につながっているのではないか」という話をされました。そして、「演劇と観光」で研修員がそれぞれの国で何ができるかという点について意見交換もしていただきました。

研修期間終了後、ジャマイカの研修員(タミさん ジャマイカ観光政策アナリスト)から「自国での取り組みに繋げたい」との感想が届いたため、平田学長に転送したところ、「ジャマイカの方からのお手紙には感動しました。ぜひ、本学と連携ができればと思います」との連絡をいただきました。平田学長には2023年度もご講義で協力いただける予定です。



平田オリザ氏が
16歳での
自転車世界一周
旅行体験を
スライドで披露。



音響・照明設備完備
の劇場をはじめ、レッ
スンスタジオ、楽屋、
大道具室などを見学
した研修員。

研修に参加した各国の観光関係行政官の声



**ジャマイカ 観光省
観光政策アナリスト**

観光意識の向上と職業選択としての観光への興味を高めたい。



**ツバル 観光局
観光支援官**

観光ウェブサイトを作って多くの観光客に来てもらいたい。



**カンボジア観光省
国際協力・ASEAN部
所長**

スパ業界の人材育成を図りたい。



**タンザニア
ザンジバル観光委員会
主席人事官**

ザンジバル島への観光客が増加中。デジタルマーケティングを活用して観光資源をプロモーションします。



**タジキスタン共和国
政府観光開発委員会
チーフスペシャリスト**

観光資源のサービス品質管理システム構築をめざします。



**エジプト 観光・考古省
大臣官房技術委員
観光スペシャリスト**

地域住民の観光に対する意識を高めたい。



**エチオピア 観光省
ビジネス開発と市場連携の上級専門家**

現地の人々の観光スキルを向上させます。



**モンゴル ウランバートル市
観光課 対外協力スペシャリスト**

ウランバートル市街の歴史的・文化的な遺産の整備プランができました。



**ミクロネシア
コスラエ観光局
観光スペシャリスト**

官民連携や宣伝に着目した長期計画を作りました。



文化における 現地主義。

**歴史街道推進協議会の稻永です。
日本の歴史・文化を世界に発信していきます。**

「日本の歴史・文化を世界に発信していこう」。1980年代、海外から「自国の文化を語れない日本人」と評された苦い経験から、日本文化を日本人自身が知り、海外へ発信することを目的に「歴史街道計画」が生まれました。以来30年余り、多くの団体、個人の方々のご協力をいただきながら、様々な活動を続けています。歴史街道計画の主旨は「文化における現地主義」です。豊かな歴史文化資源をもつ関西に実際に訪問していくことで、日本の歴史文化に触れていただく、それが「文化発信」の効果的な方法であると考えています。そこで、「講義」と「現地訪問」という構成で日本文化を知っていただく「日本文化体感プログラム」を立ち上げました。このプログラムは、日本の企業(ビジネスパーソン)、大学生、高校生はもちろん、日本の技術などを学ぶことを目的に、国際協力機構(JICA)が招聘する研修員や、海外から日本に学びにこられている留学生など幅広い方々に提供しています。

2020年、新型コロナ感染症の感染拡大によって、世界との交流が途絶え、国内においても人と人が接することが難しくなりました。海外からの留学生もオンラインで大学にも行けない状態が続きました。

その中で、首都圏で学ぶ留学生を関西に招聘し、地元の大学生とともに日本文化を体感してもらうプログラムを実施。また、同様のプログラムを関西の留学生と地元高校生との交流として活用するなど、制限があるなかでも出来ることにトライしました。若い世代の方々へ本プログラムを提供できたことは、次のステップにつながる貴重な体験だったと感じています。2025年には大阪・関西万博が開催され、ここ関西に大勢の方々が来訪されます。関西の歴史文化資源を通して、日本の文化をより多くの方々に発信できるよう、活動を続けていきたいと思っています。

(歴史街道推進協議会 事業推進部 日本文化体感プログラム担当リーダー 稲永 明子 氏)



リーダーシップ 現地主義。

**他国から来た人よりも、言葉や文化を知る現地の人が
リーダーシップをとることが持続可能な開発には必要。**

今回、研修と一緒に担当した佐賀職員はPREX入局4年目。

高校生の頃に見た、JICA海外協力隊の募集ポスターのアフリカの子どもたちの眼差しに惹かれたそうです。その頃から協力隊が憧れになり、大学3年生の時にはフィリピンの児童養護施設でボランティアを体験。新卒で入社した食品メーカーでは営業職として頑張っていましたが、JICA海外青年協力隊への夢が諦められずに退職し、ベトナムやフィリピン、オーストラリアでボランティア活動を経て協力隊へ応募しました。

派遣されたエチオピアではコミュニティ開発隊員として2年間活動。その活動から、人材育成に携わる仕事がしたいという思いでPREXへ入局。現在も働きながら通信制大学院で学んでいます。コミュニケーション能力が高く、持ち前の明るさと笑顔、海外で学んだ英語力とアムハラ語（エチオピアの公用語）を操り、誰とでも自然体ですぐに仲良くなれるので、研修員同士のチームビルディングが得意です。公益財団法人とはいえ、PREX独自研修の研修員募集活動では、研修のメリットを丁寧に伝えて、企業の皆さんに研修の良さを理解してもらい、受講に応募していただける会社も毎年増えつつあります。

より良い研修を企画するためには、その分野の知識だけでなく、開発途上国への想い、行動力、コミュニケーション能力などが必要です。これらを十分に備えている佐賀職員は様々な組織やネットワークを使い、情報・知識を得てスキルアップし、ベトナム中核人材育成、中小企業振興、貿易・投資促進、観光振興等、研修分野の守備範囲を広げ続けています。

（国際交流部 田中）

研修事業にご協力いただく企業や講師の皆さんと研修員の熱意、研修を企画し、同行するPREX職員の想い、それらすべてがPREXならではの研修をつくるチカラです。訪日しての研修だからこそできる、『魅力の体感』と『成功の知見』。この2つを研修員が肌感覚でつかみ、腹落ちすることが大事だと考えています。皆様ぜひご一読を！ご意見・ご感想をお待ちしています。E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

2023年度 研修事業スタート

2023年度は25件程度の研修実施を予定しています。

5月から7月に実施した研修は以下の通りです。

●カザフスタン カイゼン(訪日研修)

現地企業の経営者・経営幹部 10名+カザフスタン日本センター職員1名
計11名が参加。



株式会社ダイキンサンライズ摂津を訪問した研修員

●JICA先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略(A)

ブータン、マレーシア、モンゴル、パキスタン、スリランカ、セルビア 6カ国の輸出促進業務に携わる政府、公的機関、地方自治体の職員、及び、商工会議所、業界団体等の民間組織管理職 6名が参加。

●JICA中小企業振興政策(A)

ラオス、モルディブ、ネパール、ドミニカ共和国、ウズベキスタン、トルコ 6カ国の中小企業振興に携わる中央省庁、地方自治体の行政職員、商工会議所等の公的支援機関等の職員 6名が参加。



研修レポートは
こちらから

第14回 上本町SDGs大学を開催しました。

6/24日(土)クレオ大阪中央で開催した上本町SDGs大学では、金沢工業大学が SDGs教育を目的に開発したゲーム(ゲーム名:常識を疑え! ファクト)を中学生や高校生に体験してもらいました。ジェンダーギャップ、平等・不平等に関するクイズに「数字」で答えるゲームで、「数字」として事実を学びながら、参加者同士で異なる「価値観」を共有しました。



【PREXウェブサイトスタッフコラム更新中】

キューバからのプレゼント

「PREXの研修に大変感謝しています。皆さんに私の気持ちをお送りしたいです！」

とキューバから参加をしていた研修員から感謝の言葉をもらったのは、私が2022年度に担当していた投資促進・ビジネス環境整備(A)研修のプログラム最終日でした。

コロナの影響により、オンラインで研修を実施していた時期ですが、後日、キューバからはるばるお礼のプレゼントが届きました。びっくりです。カラフルでキラキラしていて、とっても可愛いです。本当にグラシアス。ハート型のキーホルダーは自宅に飾り、眺める度にまだ一度も行ったことのないキューバに憧れを募らせています。いつかキューバに行ってみたい！！(国際交流部 児島)



JICAコラボデスク ご活用ください。



JICAコラボデスクは、JICA中小企業・SDGs支援制度の紹介・応募に際してのコンサルテーションや海外展開に役立つセミナー開催・情報提供、関連機関紹介、JICA関連行事の支援活動などを行っています。

今年度も引き続きグランフロント大阪北館7階K709にてPREX職員が、JICA中小企業海外展開支援アドバイザーとしてお待ちしておりますので、どうぞお気軽にご連絡ください。

健康経営に取り組んでいます。



PREXでは3時のラジオ体操やウォーキングランナー制度、「心の健康づくり計画」等職員の健康増進を継続中です。2023年度は経済産業省の健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)として認定されました。